

# 国語科学習指導案

平成22年7月6日(火)～7月9日(金)

5年生対象 指導者 長期研修員 宮一 美樹

## 1 目指す言語能力

古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。

[読むこと(1)ア]

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(イ)]

## 2 単元名 昔の人のものの見方・感じ方を知ろう

教材 『竹取物語』(現代語訳)

## 3 考察

### (1) 児童の実態

本学級の児童は、本を読むことが好きで、学校図書館を積極的に利用し、読書をする姿が見られる。国語の授業においては、積極的に自分の考えを発表したり、根拠を基に考えを的確にまとめたりすることができる児童がほとんどである。課題に対しても、真面目な態度で取り組むことができる。

読むことに関しては、場面の様子がよく分かるように工夫して音読したり、登場人物の心情を叙述を基に考えたりすることができる児童が多い。交流の場面では、自分の意見と友達の見解を比べながら考えを深めたり、広げたりすることもできるようになってきた。

伝統的な言語文化に関する実態は、事前アンケートにより以下のようにとらえた。

日本の代表的な昔話については、絵本で読んだり、読み聞かせを聞いたりして全員の児童が題名や内容を知っている。そして、今後さらに古典を勉強してみたいと思っている児童がほとんどである。理由としては、昔のことをもっと知りたい、古典には昔の人の知恵が書かれているので、それを知りたい、現代の生活との違いを考えてみたい、基本的な知識として知っておいたほうがよいと思う、等をあげている。そして、児童は古典を学ぶ際の学習活動として、音読や暗唱よりも、俳句や短歌を作る、昔話を演じる、等の表現活動を楽しみにしている様子が窺える。しかし、現時点で、自分から進んで昔話を読んでいる児童はほとんどいない。現代の物語のほうがおもしろいと感じていて、昔話のおもしろさに気付いていない児童が多い。

### (2) 教材観

児童は、幼児期に「かぐや姫」の絵本を読んだり、読み聞かせを聞いたりした記憶があるであろう。その点で、「竹取物語」は、親しみやすい古典であり、学習への意欲を高めるためにも適した教材であるといえる。

児童の「かぐや姫」の話に対する認識は、竹の中からかわいらしい女の子が出てきて、おじいさん、おばあさんと暮らし、やがて月に帰っていくというものであろう。5人の貴公子が登場し、かぐや姫から出される無理難題を、なんとかして解決しようとする姿は、おもしろおかしく、児童は、物語により親しみをもつことができると考える。「竹取物語」の解説文を読み、原文に近い現代語訳を読んだときには、新たな発見と新鮮な驚きがあると思われる。昔の人も、現代人と同じように好きな人に気に入られようと四苦八苦したこと、いつの世も変わらぬ、両親の我が子への愛情などを知り、古典にも現代の物語と変わらぬおもしろさがあることに気付くことができる教材である。また、物語全体を通して描かれている美しいファンタジーの世界に憧れをもつ児童もいるであろう。不老不死の薬を燃やした煙が、今も富士山の雲の中に立ち上っているというラストシーンは、遙か遠い昔と現代とのつながりに思いを馳せることができる場面である。

我が国で最初に書かれた物語を楽しく読み進めることにより、児童の古典への扉を開くことができる教材であると考え、本単元を設定した。

### (3) 指導方針

#### 【つかむ過程】

- ビデオを流したり、絵本を紹介したりして教材との出会いを工夫することにより、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
- クイズ形式を取り入れることにより、楽しみながら平安時代の文化に触れ、古典に興味をもてるようにする。

#### 【追究する過程】

- 原文に触れることにより、そのリズムのよさを感じ取ったり、現代文にも似ているところがあったりすることに、気付くことができるようにする。
- 5人の貴公子の行動からその性格を考える活動を取り入れることにより、今も昔も、ずるい人やお金にたよる人、偉そうにしている人がいるということに気付き、昔の人に親しみがもてるようにする。

#### 【まとめる過程】

- 帝が不老不死の薬を飲まずに捨ててしまった理由を考え、友達と意見交流をすることを通して、人が生きる上で大切なものについて、自分なりの考えをもてるようにする。
- 児童が感じたこと、考えたことの一つ一つを大切に扱いながら、千年以上前に書かれた物語でも、現代の自分たちの暮らしや考え方に共通するものがあることに気付くことができるようにする。

## 4 指導の目標・指導計画・評価計画（全4時間）

単元	昔の人のものの見方・感じ方を知ろう『竹取物語』				
目標	○『竹取物語』に関心を持ち、それぞれの登場人物の性格を読み取り、現代人との共通点や相違点を考える。 ○昔の人のものの見方や感じ方を知り、古典に親しむ。				
評価 規 準	<b>【関心・意欲・態度】</b> 『竹取物語』に関心を持ち、意欲的に読もうとしている。 <b>【読む能力】</b> 登場人物の行動からそれぞれの性格を想像し、自分の考えをまとめている。 <b>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</b> 自分たちの生活と比べながら読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ろうとしている。				
過程	時間	ねらい	学 習 活 動	支援及び留意点	参考資料
つ か む	1	『かぐや姫』の絵本やビデオを見て『竹取物語』に関心をもつことができる。 <b>【わくわくの出会いの活動】</b>	作品と出会い、単元の学習内容を知る。	○物語を読む前に、『竹取物語』のビデオを紹介し、昔の物語が現代でも親しまれていることを知らせる。 ○絵本を示し、小さい頃に『かぐや姫』のお話を読んだり、聞いたりしたことがあったことを想起できるようにする。 ○クイズ形式を取り入れ、楽しみながら昔の文化を知ることができるようにする。	平安時代クイズ (パワーポイント) 略案 ワークシート 板書計画
追	2	『竹取物語』の冒頭	原文を声に出して	○冒頭部分の原文を声に出して読むこ	略案

究 ず る		の原文を読み、リズムを感じ取ったり、現代語訳との共通点や相違点に気付いたりすることができる。 <b>【いろいろな音読活動】</b>	読んだり、現代語訳と比べて読んだりすることを通して、原文に触れ、意味を考えながらあらすじを理解する。	とで、原文と現代語訳の共通点と相違点に気付くことができるようにする。 ○絵本による簡単な現代語訳を読み聞かせることで、あらすじを理解できるようにする。	ワークシート 板書計画
	3	5人の貴公子の行動から性格を想像することができる。 <b>【いきいきと表現する活動】</b>	5人の貴公子の行動をまとめ、それに対する自分の考えをもつ。	○5人の貴公子の行動から、それぞれの性格を短い言葉で表すことにより、貴公子の性格について想像することができるようにする。	略案 ワークシート 板書計画
ま と め る	4	昔の人と現代人の共通点に気づき、昔の人に親しみをもつことができる。 <b>【いろいろな音読活動】</b>	帝が不老不死の薬を捨ててしまった理由を考えながら昔の人と現代人の共通点について話し合う。	○月の世界と人間の世界を比較することを通して、どちらの生き方がより人間らしい生き方かを考えるようにする。 ○グループでの意見交流の場面では、少人数で話し合うことにより、安心して自分の意見が言えるようにする。 ○一人一人の児童の意見を大切に扱い、古典を読む楽しさを感じることができるようになる。	略案 ワークシート 板書計画

## 5 本時の学習くつかむ過程 > 第1時 (1/4)

### (1) 本時のねらい

「かぐや姫」の絵本やビデオを見て、「竹取物語」に関心をもつことができる。

### (2) 準備

「竹取物語」のDVD、絵本、パワーポイントで作成した平安時代クイズ、「竹取物語」の解説文、平安時代の様子が分かる絵や写真、「竹取物語」の現代語訳

### (3) 展開

過程	学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目 (方法)
つ か む	1 作品と出会う 「かぐや姫」について知っていることや、覚えてえている話の内容などについてを交流する。	15	○「竹取物語」のビデオを流し、児童の学習への興味・関心を高めることができるようにする。 ○ 自分が記憶している「かぐや姫」の話のあらすじを発表することにより、物語を身近に感じることができるようになる。	<b>【関・意・態】</b> ○「竹取物語」について知っていることを発表したり、意欲的に
追 究	2 平安時代クイズに取り組み、当時の人々の生活や文化について知る。		○昔から読み継がれている物語のことを古典ということを知らせ、古典の存在を知ることができるようにする。	

する	3 「竹取物語」について解説した文を読む。	25	○クイズ形式で平安時代の生活や文化について考えることを通して当時の人々の生活や考え方について興味をもてるようにする。 ○「竹取物語」について解説した文を読み、書かれた時代やおよその話の内容について理解することができるようにする。	平安時代クイズに取り組んだりしている。 ◎「竹取物語」に関心を持ち、書かれた時代や内容に興味をもって読もうとしている。
まとめる	4 単元の学習内容を知り今後の学習の見通しをもつ。	5	○現代語訳の全文を配付し、家庭学習で読んでみるよう促す。	(発表、ワークシート)

## 5 本時の学習<追究する過程> 第2時(2/4)

### (1) 本時のねらい

「竹取物語」の冒頭の原文を読みその意味を考え、物語のあらすじを理解する。

### (2) 準備

「竹取物語」冒頭の原文、「かぐや姫」の絵本、ワークシート、現代語訳

### (3) 展開

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つかむ	1 「竹取物語」冒頭部分の原文を聞く。	5	○児童が原文のリズムのよさを感じ取ることができるような、読み聞かせをする。	
追究する	2 「竹取物語」冒頭部分の原文を読む。	30	○追い読み、一斉読み、交代読み、句点読みなど、多様な音読活動を行うことにより、原文に慣れることができるようにする。 ○分からない語句の意味は、現代語訳と照らし合わせながら考えていくようにし、児童が原文に抵抗感をもつことがないよう配慮する。 ○現代語訳と比べ、気付いたことについて話し合うことにより、原文は難しいものではなく、現代の言葉とつながっていることに気付くことができるようにする。	<b>【読む能力】</b> ○原文を読み、意味を考え、物語のあらすじを理解している。 ◎原文を読み、言葉の意味を考えながら現代語との共通点や相違点に気付いている。
まとめる	3 「かぐや姫」の絵本の読み聞かせを聞く。	10	○次時の活動についての説明をし、5人の貴公子の行動を中心に聞くように助言をすることで学習の見通しがもてるようにする。	(発表)

5 本時の学習<追究する過程> 第3時(3/4)

(1) 本時のねらい

5人の貴公子の行動から、それぞれの性格を想像する。

(2) 準備

5人の貴公子の絵、ワークシート、現代語訳

(3) 展開

過程	学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つかむ	1 「竹取物語」の登場人物を確認する。	5	○登場人物とかぐや姫から要求された物を確認し、本時は5人の貴公子の行動や性格について考えていくことを知らせる。	<p><b>【読む能力】</b></p> <p>○叙述から5人の貴公子の行動をまとめ、性格を想像している。</p> <p>◎5人の貴公子の性格を考え、現代人との共通点に気付いている。(ワークシート、発表)</p>
追究する	2 5人の貴公子の行動をまとめる。  3 5人の貴公子の性格を考える。	30	○児童に親しみやすい漫画を使って貴公子の行動から、言ったであろう言葉を考えていくようにする。 ○5人の貴公子に親しみをもつことができるよう、性格を自分が知っている短い言葉で表すように助言する。 ○5人の性格を児童が各自で考えた後、グループ内で交流をし、友達の考えを知ることができるようにする。	
まとめる	5 5人の貴公子の性格を発表する。	10	○児童一人一人の意見を大切にし、人物に対して、様々な見方・考え方があることに気付くことができるようにする。 ○昔の人と現代人との共通点を話し合うことを通して、昔の人に親しみをもてるようにする。	

5 本時の学習くまとめる過程> 第4時(4/4)

(1) 本時のねらい

昔の人々が何を大切にしながら生きていたかを考える。

(2) 準備

ワークシート、現代語訳

(3) 展開

過程	学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つかむ	1 「竹取物語」の最後の別れの場面の読み聞かせを聞く。	5	○別れの場面では、どんな出来事が書かれているかを考えながら聞くよう助言する。	
追究する	2 おじいさんとおばあさんはなぜ不老不死の薬を飲まなかったのか、帝はなぜ不老不死の薬を燃やしてしまったのかを考える。	30	○各自で考えた後、3、4人のグループで意見交流をし、いろいろな考え方に触れることができるようにする。 ○おじいさんとおばあさんや帝が不老不死の薬を飲まなかった理由を考えることを通して、彼らが何を大切に思っていたのかを考えることができるようにする。 ○月の世界と下界を比べることを通して、生きていくとはどういうことなのかを考えることができるようにする。	【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○「竹取物語」を読んだ感想をまとめ、古典を読んで気付いたことを書いている。
まとめる	4 「竹取物語」を読んだ感想を交流し合う。	10	○初めて古典を読んだ感想、昔と現代の生活や考え方についての共通点や相違点など感じたこと、思ったことを自由に発表できるようにする。 ○古典には、昔の人の知恵や日本や日本人のよさが書かれており、古典を読むことを通して自分たちの生活を見つめることができることを知らせ、今後の古典学習への意欲をつなげることができるようにする。	◎「竹取物語」を読んで分かった昔の人のものの見方や感じ方を感想としてまとめ、今後も古典を読んでいこうとする意欲を書いている。 (ワークシート)

[伝統的な言語文化に親しむ]

○現代語訳を最後まで読んでみる。

○ワークシートに昔の人々と現代の人々とのつながりに関する記述がある。

○感想に、古典を楽しんで読むことができたということや、今後も古典を読んでいきたい等の記述がある。

# 国語科学習指導案

平成22年10月25日(月)～11月1日(月)  
5年生対象 指導者 長期研修員 宮一 美樹

## 1 目指す言語能力

『枕草子』を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知り、社会事象や自然、日常生活などを新たな目で観察し、感じたことを文章にまとめることができる。

[書くこと (1) ア、イ、ウ (2) ア]

[読むこと (1) ア]

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア (ア) (イ)]

## 2 単元名 わたしも<sup>ずいひつか</sup>随筆家

教材 『枕草子』 (角川ソフィア文庫 ビギナーズ・クラシックス日本の古典)  
(集英社 NHKまんがで読む古典 1)  
(河出文庫 『桃尻語訳 枕草子』)

## 3 考察

### (1) 児童の実態

本学級の児童は、7月の『竹取物語』の学習で初めて古典に接した。幼少期に『かぐや姫』の絵本を読んであらすじを知っている児童がほとんどであったが、5人の貴公子が登場することや、不老不死の薬についてのエピソードは初めて知る児童が多く、新たな発見に驚いていた様子であった。登場人物の性格を考え、その人物が言ったであろうセリフを想像して発表する場面では、興味・関心をもち、積極的に発言をする児童が多く見られ、楽しく活気のある授業となった。全体的に国語の学習に対する意欲は高く、いろいろな学習活動に対して積極的に取り組む児童が多い。

原文を読む際には、歴史的仮名遣いの読み方や言葉の意味を分かりやすく簡単に解説し、児童が抵抗感をもつことがないように配慮した。また、現代語との違いや共通点を、話し合いを通して児童自ら発見できるように支援し、古文に親しみをもつことができるようにした。学習の後半になると、冒頭部分の短い原文を暗唱できるようになった児童も見られ、リズムよく読むことができるようになった。

本単元では、『枕草子』の形式を参考にして自分でも随筆を書く、という活動を計画した。本校では、平成20年度から、「児童の表現力を高める」ことを主題に掲げ、校内研修を推進してきた。朝の学習で作文を書いたり、俳句を作ったりする時間を設定し、書くことに慣れ、自分の考えを表現できる児童の育成に努めてきた。その結果、書くことに対して抵抗を感じる児童は、減ってきた。しかし、対象を深く見つめ、感動したことをいろいろな表現を用いて表したり、日常生活を新たな視点で見つめ、自分の思いを生き生きと表現したりするまでには至っていない児童がほとんどである。

以下は、『竹取物語』の学習後の児童の感想である。

- ・絵本では知らなかった話を知ることができてよかった。
- ・古文をもっと読んでみたくなった。
- ・昔の人も、今の人とあまり変わらないということが分かった。
- ・今の言葉で、『竹取物語』を最初から最後まで読んでみようと思う。

このような児童の姿から、『竹取物語』の学習を通して、古典の存在を知り、伝統的な言語文化に親しむための入口に立つことができたのではないかと考える。

## (2) 教材観

児童は今までの学習や読書の中で、随筆を読んだ経験は少ないと思われる。随筆やエッセイを読むことは、いろいろな対象へのものの見方や考え方を広げたり、深めたりする価値がある。5年生という心身共に大きく成長する時期に、随筆の存在を知り、触れていくことは、読書の幅を広げ、ものの見方を深めたり、社会事象や自然、日常生活について新たな目で見つめていったりするために大変有効であると考え。

『枕草子』の内容は、大きく分けると「類聚」、「日記」、「随想」、「メモやスケッチなど」に分類することができる。この中には、現代人にも共感できる考えも多く書かれており、児童に親しみやすい内容もある。自分が興味をもったテーマや段から気軽に読むことができる形式となっている。千年前の実在の人物の喜怒哀楽やしぐさ、視線などがみずみずしく描かれている文章に触れることにより、遙か昔の遠い貴族の世界を身近に感じ、古典に親しみをもつきっかけになる教材であると考え。千年の時を隔てても変わらない人間の価値観に驚き、昔の人のものの見方や感じ方に共感することができるであろう。また、児童自らが身の回りの事象に目を向け、新しい発見をしながら、これらをより鋭く見つめる目を養うことができる教材であると考え、本単元を設定した。

## (3) 教材の系統

### 『竹取物語』

古典の存在を知り、『竹取物語』を登場人物に着目しながら読むことを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知り、古典に親しみながら古典学習の入口に立つ。



### 『枕草子』

『枕草子』を読み、昔の人のものの見方や感じ方に共感すると同時に、自分でも随筆を書くことを通して、読書の幅を広げ、ものの見方を深めたり、社会事象や自然、日常生活について新たな目で見つめたりして、今後も古典や随筆に親しんでいこうとする。

## (4) 指導方針

### 【つかむ過程】

- 平安貴族の生活について、絵や写真を用いて紹介することにより、時代背景や作品に興味をもち、楽しく学習を進めていけるような見通しがもてるようにする。
- 随筆や『枕草子』について漫画を使って簡単に説明することにより、「読んでみたい」という意欲を引き出せるようにする。

### 【追究する過程】

- 一人一人の児童が興味をもった段を中心に読む活動を取り入れ、主体的に作品と関わり、意欲的に学習を進めることができるようにする。
- いろいろな音読活動を取り入れ、楽しみながら短い原文に親しみ、古文を身近に感じることができるようになる。
- 『枕草子』の中で児童が興味をもちそうな段を読み聞かせたり、教師または他の学校の児童が書いた随筆を紹介したりすることにより、ものの見方や感じ方を広げ、自分でも随筆を書いてみようという意欲を引き出すことができるようにする。

### 【まとめる過程】



- お互いの作品を楽しく読み合う活動を通して、随筆の楽しさを実感し、今後も古典や随筆に親しんでいこうとする姿勢を養うことができるようにする。
- 児童一人一人が書いた作品をまとめ、クラスで1冊の「入野草子」を作ることにより、随筆を書いたことに対する満足感や達成感を味わえるようにする。

#### 4 単元の目標及び評価規準

##### (1) 単元の目標

- 『枕草子』を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。
- 『枕草子』の表現方法を参考にして、自分の考えや発見したことについて楽しみながら随筆を書くことを通して、古典に親しみをもち、日常生活や自然を見つめる目を養う。

##### (2) 評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
単元の学習への見通しをもち、『枕草子』を楽しみながら読もうとしている。	自分が興味のあるテーマについて考えや発見したことをまとめ、随筆を書いている。	『枕草子』を読み、昔の人のものの見方・感じ方に触れ、共感できるところや自分とは考えが違うところに気付こうとしている。

#### 5 指導計画（全5時間）

##### ○常時活動

新聞記事の感想を書いたり、テーマを決めて短作文を書く活動をしたりすることを通して、ものの見方を広げ自分の考えをもつ学習をしていく。

新聞を読むことにより、児童は社会の様々な事象に気付くことができるであろう。今まで興味のなかった分野へも視野を広げることができるようになる。また、興味のある記事をスクラップしていくと、自分が主にどんなことに対して関心をもっているのか、ということも明らかになってくる。記事を読んだ感想をまとめていくことを通して、物事を主体的に見つめ、自分の考えをもつ姿勢を養っていきたい。

過程	時間	学習活動	研究上の手だて	参考資料
つかむ	1	○作品と出会い、単元の学習内容を知る。 <b>【わくわくの出会いの活動】</b>	<p>平安時代に書かれた随筆に興味をもち、楽しく学習が進められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●親しみやすい漫画やDVDを用いて、『枕草子』について紹介することで、学習への意欲を高めていけるようにする。</li> <li>●『枕草子』の中から児童の興味を引きそうな段を選び、簡単にその内容を知らせることにより、『枕草子』の形式や随筆について、楽しみながら知ることができるようになる。</li> <li>●他の学校の児童の作品例や教師が書いた随筆を紹介し最終的に自分たちも随筆を書く、という学習の見通しがもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漫画『枕草子』(NHKま</li> <li>んがで読む古典)</li> <li>・DVD『枕草子』(サンエデュケーションナル)</li> </ul>

追 究 す る	2	○自分が興味をもった段を原文と口語訳を対比させながら読む。 <b>【いろいろな音読活動】</b>	●自分が興味のある段を選ぶことにより、学習への意欲を高められるようにする。 ●原文の中から自分が共感できる部分、または自分とは考えが違う部分を選び音読をし、グループで音読や自分の考えを紹介し合う活動を通して、楽しみながら原文のリズムを感じ取ることができるようにする。	・原文、現代語訳 ・全5時間分の略案、ワークシート
	3	○自分が選んだテーマについて随筆に書く内容をメモにまとめ、整理する。 <b>【いきいきと表現する活動】</b>	●『枕草子』の形式に従って教師が書いた随筆を紹介することにより、随筆を書くことの楽しさを感じることができるようにする。 ●今まで気にも留めなかったことなど、いろいろなものの見方で随筆に書く内容をまとめることができるようにする。	・随筆の例文
	4	○選んだテーマについての随筆を書く。	●児童が負担に感じることがないように、形式にはあまりこだわらないようにし、楽しく自分の考えが表現できるようにする。	
ま と め る	5	○作品を発表し合い、友達の表現のよさやおもしろさについて交流する。	●自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、人によっていろいろなものの見方や考え方があることを知り、楽しみながら考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。 ●全員の随筆を1冊の作品にして製本し、書き上げたことに対する達成感や満足感を味わうことができるようにする。	

6 本時の学習 <つかむ過程> 第1時(1/5)

(1) 本時のねらい

平安時代の貴族の生活に触れ、『枕草子』について知ることを通して、学習への見通しをもつことができる。

(2) 準備

清少納言と中宮定子の肖像画、『枕草子』の成立の由来が描かれた漫画のイラスト、枕草子のDVD、『枕草子』第一段(春はあけぼの)、第二十六段(胸のドキドキするもの)、第四十一段(涼風が立って)、第九十一段(癩にさわってむしゃくしゃするもの)、第百三十五段(退屈を紛らわすもの)、第百四十六段(かわいらしいもの)、第二百十九段(大きい方がよいもの)

(3) 展開

過程	学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つ か む	1 作品と出会う。	10	○平安時代の貴族の服装や住居の写真を提示し、前期の『竹取物語』の学習を思い出すことができるようにする。 ○随筆について説明をし、『枕草子』が書かれた背景について、漫画を使って楽しく理解することができるようにする。	
追 究 す る	2 『枕草子』の内容を知る。	25	○児童の興味を引きそうな段を選び、やさしい口語訳や漫画、DVDを使って内容を知らせることにより、『枕草子』に興味をもつことができるようにする。 ○教師が書いた随筆の例を紹介し、随筆を書くことの楽しさを感じることができるようにする。	【関・意・態】 ○『枕草子』に興味をもち、自分が気に入った段を選んでいる。 ◎『枕草子』に興味をもち、自分が気に入った段を選びその理由を発表している。 (発言)
ま と め る	3 自分が気に入った段を選ぶ。	10	○自分の考えと似ているもの、自分とは違う考え方のもの、おもしろいものなど、いろいろな観点から選ぶことができるよう助言をする。	

6 本時の学習 <追究する過程> 第2時(2/5)

(1) 本時のねらい

『枕草子』を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。

(2) 準備

ワークシート

(3) 展開

過程	学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つかむ	1 『枕草子』の自分が気に入った段の口語訳を読む。	5	○児童用のやさしい口語訳を使うことにより、無理なく内容を理解することができるようにする	<p>【伝統的な言語文化】</p> <p>○『枕草子』を読み、共感できるところ、新鮮な驚きなどに気付こうとしている。</p> <p>◎『枕草子』を読み、共感できるところや新鮮な驚きに気付き、それを友達と交流することで、新たな発見をしている。</p> <p>(ワークシート、話合いの様子)</p>
追究する	2 原文を読む。	25	○原文を声に出して読むことにより、古文のリズムを感じ取ることができるようにする。	
	3 自分の考え方との共通点や相違点を考え、感想をまとめる。		○児童の負担にならないように、選んだ段の原文すべてではなく、一部でも読めればよいことにする。	
まとめる	4 感想を交流する。	15	○同じ段を選んだ児童同士でグループを作り、いろいろな方法で音読を楽しむことができるようにする。	
			○昔の人のものの見方や考え方を味わい、自分の経験や考えと比べるように助言する。	
			○同じ段を選んだ児童同士で交流したり、違う段の内容や感想を聞く活動を設定したりして、様々なものの見方や考え方に触れることができるようにする。	

6 本時の学習<追究する過程> 第3時(3/5)

(1) 本時のねらい

自分が随筆に書きたいテーマを選び、書きたい内容をメモにまとめ、構想を練ることができる。

(2) 準備

ワークシート(教師)、今までに書いた日記や作文、新聞記事の感想をまとめたものなど(児童)

(3) 展開

過程	学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つ か む	1 教師が書いた随筆の例や、他の学校の児童が書いた随筆を聞き、そのおもしろさに触れる。	10	○教師が『枕草子』から「春はあけぼの」「ありがたきもの」「うつくしきもの」等を参考に、自分で作った随筆を見本として用意することで、児童の興味・関心を高めることができるようにする。	
追 究 す る	2 書き方の例を知る。  3 自分が随筆に書きたいテーマを決める。  4 随筆に書く内容を決め、構想メモを書く。	30	○全員で話し合いながら、簡単に例文を作ってみることにより、テーマの決め方、内容の選び方、形式などを理解できるようにし、個人でも無理なく取り組むことができるようにする。 ○『枕草子』の中のテーマでも、違うテーマでも、どちらでもよいことにし、児童が書きたい内容を自由に選べるようにする。 ○感動や驚き、今まで気に留めなかったようなことなど、いろいろな見方で随筆を書くことができるよう助言する。	<b>【書く能力】</b> ○自分が随筆に書きたいテーマを決めることができる。 ◎自分が随筆に書きたいテーマを決め、書く内容を考え構想メモにまとめることができる。 (ワークシート)
ま と め る	5 自分が書く随筆の題名を決め、次時の学習の見通しをもつ。	5	○書かれている内容が一目で分かるような題名を付けるよう助言する。	

6 本時の学習<追究する過程> 第4時(4/5)

(1) 本時のねらい

自分が発見したことや思いを、効果的な表現を用いて随筆に書くことができる。

(2) 準備

ワークシート、前時に書いた構想メモ

(3) 展開

過程	学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つ か む	1 自分の思いが読む人に伝わるような表現方法について確認する。	5	○「なんといっても」「もちろん」「まして」などの表現方法をもう一度確認し、自分の思いに合うものを使うことができるようにする。	
追 究 す る	2 随筆を書く。  3 推敲する。	30	○字数にはあまりとらわれず、自分の思いが生き生きと伝わるよう、リズムのよい文体を心掛けるよう助言する。 ○書き上がった児童同士で、交換し、アドバイスをし合い、より生き生きとした文章になるよう修正できるようにする。 ○一番伝えたいことは何か、情景が目浮かぶような生き生きとした文章であるか、という観点からアドバイスをし合うことができるようにする。	<b>【書く能力】</b> ○自分が決めたテーマで随筆を書くことができる。 ◎自分の思いや発見が生き生きと伝わるような随筆を書くことができる。 (ワークシート)
ま と め る	4 清書する。	10	○友達からもらったアドバイスを基に、推敲した文章を清書するよう助言する。	

6 本時の学習<まとめる過程> 第5時(5/5)

(1) 本時のねらい

友達同士で作品を読み合い、いろいろなものの見方や感じ方があることに気付き、表現のよさやおもしろさについて交流することができる。

(2) 準備

前時に書いた随筆、ワークシート

(3) 展開

過程	学 習 活 動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つかむ	1 グループ内で作品を読み合う。	15	○工夫した表現や、自分では気付かなかったことなどについて発見をしながら読むことができるようにする。	【関・意・態】 ○友達作品を楽しみながら読んでいる。 ◎友達作品を読み、新たな気付きや今後の古典学習に対する意欲をまとめている。  (ワークシートト)
追究する	2 グループから代表1名を選び、全員の前で発表する。 3 友達作品のよかった点や新たに発見したことなどについてまとめる。	25	○友達作品を自分の考えと比べながら聞くよう助言する。 ○今まで自分が気付かなかったこと、考えてもみななかったことなど、新たな発見があったことについてまとめることができるようにする。	
まとめる	4 学習のまとめをする。	5	○『枕草子』を読んだことや随筆を書いたことについての感想、今後の古典学習や随筆を読むことに対する意欲などについてまとめることができるようにする。 ○全員の作品を「入野草子」として1冊の作品にまとめ製本し、書き上げたことに対する満足感や達成感を味わえるようにする。	

[伝統的な言語文化に親しむ]

- ・『枕草子』のいろいろな段を読んでみる。
- ・読書のジャンルを広げ、随筆やエッセイなどを読む。

ずいひつか

# わたしも随筆家

## 『枕草子』 1

五年 組

○自分が気に入った段

第 段

「

」

○気に入った理由

○感想



ずいひつか

# わたしも随筆家

## 『枕草子』 2

五年 組

随筆のテーマ

書きたいこと	おどろき・発見・気づき・思ったこと

# わたしも随筆家

## 『枕草子』3

五年

組

○随筆を書こう！

題名

# わたしも随筆家

## 『枕草子』4

五年 組

○友達の作品を読んで感じたことをまとめよう。

○『枕草子』を学習して